



山梨岳連

紙 名：野村静谷氏
 (毎日書道展審査員)
 発 行 山梨県山岳連盟
 (年4回)
 発行人 秋山 泉
 編集人 広報委員会
 (深沢 健三)
 事務所
 〒400-0304南アルプス市吉田166-2
 (望月 啓治方)
 (1部 100円)

少年が3種別入賞

千葉
 国体

男子 天皇杯6位 女子 皇后杯8位

第65回国民体育大会(千葉)の山岳競技は、10月2日から3日間、印西市松山下公園総合体育館を会場に開催された。山梨からは昨年に続いて関東地区予選を突破した少年女子と、10年ぶりの本戦入りを果たした少年男子と、そして成年男子の3種別9人が大舞台に挑んだ。少年男子がボルダリング2位(天皇杯6位)、少年女子がリード4位、ボルダリング5位(皇后杯8位)に入賞する好成績を挙げた。

注目は、少年男女の2種別。特にブロックを2位で通過した少年男子チームには大きな期待がかかった。ところが、初日のリ



未踏の南東壁を初登し牛心山頂に立った亀田博生、橋本誠

ド競技予選では、ふたりとも終始硬さが抜けないまま中盤のルーフ帯で田中が、続いて若尾も力なくフォールして予選敗退を喫してしまふ。推定グレードは5.13b。これを完登しながら予選落ちした佐賀県に対し、2人が完登に迫った千葉県が優勝するなど、2選手の力の平均が勝るチームが優位なのが国体のルールである。

しかし、これで吹っ切れたのか、2日目のボルダリング競技になると若尾も田中も見違える躍動ぶりを見せてくれた。予選を5位で通過すると、決勝ではさらにギアチェンジ。技巧派選手としても評価の高い、内藤監督の的確な指示も見事にはまって2位でフィニッシュ。それも優勝した千葉と最後まで競り合うハイレベルな戦いだっただけでなく、続く少年女子。関東ブロックメソンの矢崎に代って調子をあげてきた河野が出場。リード、ボル

ダリングとともに安田が引つ張る形でポイントを稼いだし、河野もボルダリングで完登を見せるなどして善戦。決勝に駒を進めたものの、追い上げわずかに及ばず、それぞれ4位と5位という成績で終わった。入賞は果たしたが、目標とする3年連続の表彰台には一步届かず、チームとしては不満が残る戦いであつた。優勝は既に世界最強のユース選手との呼び声高い小田桃花を擁する山口県が連覇した。

これで天皇杯は6位、皇后杯も8位を獲得。少年種別の活躍が貢献している図式だが、全国的な競技力の底上げが著しい中で、この成績は大健闘である。選手・監督のみならず、チーム山梨全員を讃えたい。

〔競技委員長、主任強化コーチ 山森政之〕

- ◇成年男子▽監督 渡辺晴彦(富士吉田市)▽選手 遠藤拓真(甲斐市)大森僚(甲斐市)リード34位、ボルダリング35位
- ◇少年男子▽監督 内藤聡(山梨市)▽選手 若尾龍隆(山梨市)田中慎一(韮崎工高2)リード13位、ボルダリング2位、天皇杯6位
- ◇少年女子▽監督 安田賢(笛吹市)▽選手 安田あとり(山梨英和高1)河野明理(山梨高3)リード4位、ボルダリング5位、皇后杯8位

牛心山の南東壁初登攀 岳連隊

県山岳連盟は2010年9月11日から20日まで、中国四川省小金県地区双橋溝に登山隊を送った。これは岳連が、一昨年60周年でムスタング・アタ峰登頂成功後、70周年に向けての海外遠征隊を見据えて、定期的な遠征派遣の戦略と捉えているものである。牛心山(4942m)の南東壁を亀田博生、橋本誠が初登攀するなど、大きな成果を挙げ、次のステップとした。支えてくれた人たちに感謝する。(2010双橋溝登山隊長 植松一好) 詳細 2、3面に

牛 心 山

牛心山登攀隊

牛心山4942m 南東壁12ピッチ(壁
スケール415m)

グレード10b オールナチュラルプロテ
クション・オールフリー・1プッシュ・1
ピバーク

ルート初開拓・牛心山日本人初登頂・ル
ート名「謝謝」(ありがとう、感謝)

▽メンバー 隊長 亀田博生(白鳳会)
橋本誠(山梨アルパインクラブ)

4年前にアピ山BCから牛心山を眺めて
いた。あの壁でクライミング
ができたらいいなあとと思い、
そして念願がかないその機会
が訪れた。

インターネットで情報を集
めると、ルートはいくつか開
拓されているが、日本人での
登頂はされていない。そんな
中、昨年開拓されたルートの中に1日で登
られたルートの記録を見つけた。「牛心山北
東壁ルート」このルートであれば牛心山山
頂を踏めると判断し計画を進めていた。

出発1週間前、ネットで7月に双橋溝に
行った人のブログを見てみると、牛心山の
南東壁の画像が載せてあり、その画像に一
瞬で釘付けになった。その壁の中央を頂上
にダイレクトに抜けられそうなラインが見
えたのだ。もしかしたら新ルート開拓で頂
上にダイレクトに登れるかもしれない。
イメージ的に、いい感じで出発日を迎えた。
9月13日、それぞれの隊と別れ、我々は
ポーターとともにBC設置に行動を起し

標高差415mを1ピバークで

「謝謝ルート」と命名

た。牛心山南東壁がよく見える快適な草原
状、標高4300mにBCを設置した。設
置後、すぐに南東壁偵察に出発。見上げる
大岩壁は堅く良質の花崗岩。どこでもルー
トが引けそうであるが、我々は合理的なラ
インで頂上に立てるルートを模索するた
め、さらに壁に近づき、目の前の南東壁見
上げる。下部岩壁は傾斜が強く、核心は下
部2〜3ピッチだろう。そこを抜けると傾
斜が落ちていそう。登れそうなラインを
見つけた。登れそうなラインを見つけた。
明日が待ち切れず今にも登りだしたい気分
だ。興奮しながらBCに戻る。夜、高山病
に苦しめられたが翌朝には治まっていた。

14日(快晴)

アタック日。当初の予定ではこの日は試
登の予定であった。この快晴がいつ崩れる
か分からない不安もあり、高山病の影響も
少なかつたのでピバーク覚悟で思い切っ
てアタック日とした。7時、BC出発。重荷
に苦しみ取り付き着。リードは水を含めた
4kgのザックと登攀用具、フォローはピバ
ーク用具の入った7kgのザックを背負っ
てのクライミングとなる。

9〜30岩壁に取り付く。1P目 5・7
50m 亀田リード。草付き混じりの傾斜
の緩いフェイス。2P目敗退。亀田リード。
出だしはプロテクション(支点)がとれる

がスラブになりハーケンを打てるリスもな
い。右の傾斜の強い方向に逃げる。プロテ
クションが取れて登れるが、傾斜が強く時
間がかかる上、結局A1になってしまふ。
合理的なラインではないのでいったん2P
目の取り付きまで懸垂で戻る。

2P目 5・10aR 25m 橋本リー
ド。仕切り直し。すでに12時を回っている。
とにかく下部岩壁を抜けなければならな
い。ピバーク荷物をデポしてリードはカラ
荷で登る。フォローが水入りザックを背負
って登ることになった。橋本、先ほどのスラ
ブ地点でマイクロナッツを時間をかけセッ
ト。左方向にムーブを起さず。次の瞬間マ

牛心山隊南東壁

イクロナッツが外れる。本人
は気付いていないが安定した
ところできさらにナッツを決
め、さらにカムも決める。プ
ロテクションの取れそうもな
いスラブを登る。そこはクラ
イミングテクニカルでカバ
ー。猛烈にランナウトするが
安定して登る。終了点設置。ピッチを切る。
橋本、素晴らしいクライミング！ 亀田が
フォローで上がる。

3P目 5・10b 30m 亀田リード。
橋本のクライミングを見て刺激を受ける。
ギアを受け取りザックを渡し3P目を登り
だす。荷がないのは軽くていい。気を集中
する。カムもほどよく決まりランナウトも
怖くない。ハーケンも2カ所決める。花崗
岩特有のムーブも出てきて楽しい。カムで
支点を作りフォローを迎える。フォローは
ハーケン含めすべてを回収。橋本、出し切
ってしまったのか少し疲れ気味。
4P目 5・8 40m 亀田リード。凹

北岳 間ノ岳 仙丈ヶ岳 甲斐駒ヶ岳 鳳凰山
百名山の玄関口
南アルプス
広河原山荘
南アルプス市広河原
電話090・2677・0828



角を上がり岩稜に出る。傾斜が落ち広大な
岩壁が広がる。偵察するとピバークする適
地があった。ピバーク用ザックを取りに亀
田がロープ2本をフィックスしてデポ地ま
で下降。約1000mの壁をユマリーング。
この作業が今日一番疲れた。

5P目 5・6 15m 橋本リード。ピ
バーク適地までロープを伸ばす。16〜30ピ
バーク地。着るものは全て着込み、ジフイ
ーズを食べながら目の前の景色に見とれ
る。ツエルトをかぶり、座ったままで居心
地の悪い寒くて眠れぬ長い夜を過ごした。
橋本は一晩中頭痛に苦しんでいた。

15日(快晴)

7〜30行動開始。6P目 5・6 45m
亀田リード。ほとんど歩き。7P目 5・
9 45m 亀田リード。まるで小川山でマ
ルチをしているかのような楽しいピッチ。
8P目 5・7 20m 亀田リード。テラ
スがあったので短めに切った。9P目 5
・8 40m 亀田リード。凹角を少ないプ
ロテクションで登る。目指していたコルに
出た。南東壁を登り切った。

10 P目 5・7 45m 亀田リード。プロテクションが一カ所しかとれなかった。登り自体は優しいのだがリッジなので高度感が凄い。11 P目 5・6 30m 亀田リード。もうい岩稜。落石に注意しながら登る。頂上が見えた。いったん岩稜沿いに登るがもうい上危険。クライムダウンして安



ビバーク地の2人

アピ山登山隊

▽メンバー 隊長 植松一好(白鳳会) 金丸祐司(御坂山岳会) 関秀倫(白鳳会) アピ山(5594m) 登山隊は双橋溝の民宿に着いた時、隊員の関が具合悪く、滞在中には町まで村人に付き添われ病院通いをするほどだった。

登山隊は植松と金丸、通訳のエージェン ト、コックの4人でのBC生活となった。BC4600mからの双橋溝の山々は素晴 しかった。

1日目は標高5000mのアピの水河ま

定したところでピッチを切る。

12 P目(最終ピッチ) 5・7 30m 亀田リード。ガレをトラバースして15mほど岩壁を登って牛心山頂上に立つ。橋本を迎え握手。現地時間10時丁度。アピ山登山隊のBCが見えた。思わず「ヤッホー」とBCに向かって叫ぶ(この雄叫びはアピ登山隊に聞こえたそう)。登頂できた喜びをかみ締め下山にかかる。懸垂下降中、頭上にある絡まったロープを解こうとして引つ張った瞬間、小さい落石が肩に当たった。激痛が走るがすぐに治まり大したことはない。

しかしその後、気だるさが続き、力が入らない。橋本に先行で下降をしてもらう。下降を繰り返す。

標高も下がってきたので体調は良くなつて行く。のどが乾く。きょう口にしたのは少々の水とスニッカーズ半分だけである。ビバーク地でデポしたザックを回収し順調に下降。14時に取り付きに戻る。懸垂10回。荷物をまとめてBCに帰る途中は気が抜け

で。高山病への慣れとギアのデポへ。2日目、金丸隊員の意見である氷河を渡って西側の尾根からの取り付きを目指す。しかし氷河を渡りきる頃から、その西側の尾根も垂直な壁に阻まれていた事が分かった。ただし尾根より西側の世界はまだ見た事がないので見てみたい。ロープ2ピッチで尾根状に出た。

そこは恐ろしいほどのナイフエッジともろい岩稜で形成されていた。これ以上の登攀は無理と判断、5150mで敗退となった。西側の景色には新たな未踏峰が沢山ある事が確認できた。我々アピ山攻略は、残

て疲れ果て、2人とも吐き気をもよおすほどだった。だが壁を登り切り気分は晴れやかで何度も牛心山を振り返りながら下る。そして待望のBCたどり着いた。

当初、登頂は考えていなかった。牛心山の壁でクライミングが出来ればそれだけで十分だった。しかし、あの南東壁の画像を見てから登れそうなラインを見つけ、実際に登ってしまった。本当に自分でも驚いている。

今回の登頂はさまざまな幸運が重なって実現できたと思っている。今まで牛心山を登った人たちの記録、HPの画像、現地エージェン トとの信頼関係。現地ポータの温かさ、信頼のおけるパートナー、今まで一緒に登ってきた仲間、家族の協力。そして好天にも恵まれた。さらに何よりここ、この場所に行こうと自分を誘ってくれた大親友(植松隊長)のおかげである。到底自分一人ではなれないことだった。この思いを今回登ったルート名に付けた「感謝」(ありがとう、感謝)。(亀田 博生)

る道は正面のルンゼを行くしかないが、この山は午後になると落石が物凄く踏み込む勇氣が出ない。

3日目を休養日として、4日目(最終日)、金丸隊員が駄目元でそのルンゼを早朝攻略の提案が出たが、植松の体調不良で断念となった。

アピ山は、ぜひ県山岳連盟で落としてもらいたいと思う。最後に中国四川省登山協会副主席である李慶氏より亀田隊の功績は登山協会として正式に記録を登録し公開すると連絡が入った事を報告する。

(植松 一好)

双橋溝トレックキング隊

▽メンバー リーダー 小泉美津夫(明野山岳会) 川島万里子(高根山岳会) 岩下まさ子(山猫)

1日目は成都まで。2日目は双橋溝宿泊地の王さんの民宿までの移動である。

3日目は、いよいよトレックキング。天気は快晴で双橋溝の山々が素晴らしくはつきりと望め、約7時間半に及ぶのんびりトレックキングを楽しんだ。4日目は、民宿から歩いて東の沢を登り五色山を望む場所へのトレックキング。五色山を望む場所は、標高約4300m。民宿からの標高差約1100mのトレックキングを楽しんだ。

5日目は、四姑娘山を望む西の沢の長坪溝を馬に乗り登るツアーとなる。澄んだ青空と、すばらしい山の景色、帰りは暗なつてしまふ時間まで楽しんだ。6日目、野人峰の麓の沢を登りテント場は標高4200mの地点である。7日目は、牛心山登山隊のベースキャンプまで移動しテント泊して民宿に戻った。(小泉 美津夫)

登山・アウトドアのプロショップ
OUTING PRODUCTS
エルク
〒400-0047
山梨県甲府市徳行4-13-9
TEL: 055-222-1991
e-mail: elk@elkinc.co.jp
http://www.elkinc.co.jp
☆ホームページもご覧ください!!!

中高年安全登山 講習会を主管



中高年登山指導者44人が参加した講習会

中高年登山指導者44人が参加し、富士吉田市の人材開発センター富士研修所で開かれた。

研修会では、昨年のトムラウシの大量遭難を教訓に、ツアー登山の問題点や低体温症などの症状についての講義が行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。

また、本来ならば秋晴れの空の下、富士山を見上げながら3日間行われるはずの講習会であったが、残念ながら生憎の空模様となり、9日の実技は急きょ三ツ峠山頂の四季楽園クライミング場を借り、ロープワークを行った。

講義では、中央講師のほか、山梨から「山

小屋から見たツアー登山」と題して青年小屋の竹内敬一さん、「気象遭難をなくすには」と題し甲府地方気象台の河野元治さん、「中高年登山の現状と課題」を県岳連前会長で日山協副会長の内藤順造さんがそれぞれ講演した。盛り沢山な内容となったため、全体として過密な日程となったが、内容の深いものになった。

最終日の10日には、参加者全員がリーダーの役割と心構え、危急時の対策、中高年登山の抱える諸課題の3つの分科会に分かれ活発な討議を行った。閉校式では、登山研修所の渡辺雄二所長から来年の開催地である秋田の代表者に修了証を代表交付し、3日間の研修を終えた。

終わりに、3日間ご足労をいただいた指導員ほか関係者の皆さん、大変お疲れ様でした。(理事長 小宮山稔)

低体温症 講演の要旨

10月8～10日、富士吉田市で開かれた第22回中高年安全登山指導者講習会において、日本山岳協会医科学委員会委員長の堀井昌子医師から「低体温症について」の講義があった。これまでは疲労凍死は知っていても、低体温症の知識は普及しておらず、昨年7月の北海道トムラウシにおけるツアー登山中の8人の死亡遭難事故によって、ようやく登山者に認識されてきた。以下、講義の主なポイントを報告する。

■低体温症とは、深部体温(直腸温)が

35℃以下に下がった場合をいい、脇の下で34・0℃前後、または口の中で34・5℃前後なら低体温症を疑う必要がある。な

ぜなら低体温症になると、次の恐ろしい状態となり、放置すると急激に悪化進行し、死に至る病態であるからだ。

①安静にしても大量のエネルギーを消費する(体温が0・6℃下がると、酸素消費量は極端に増加する) ②自力で正常な体温には戻せない ③早い時期から判断力が落ちる ④震えが起こらなくなると加速度的に進む ⑤単なる疲労との区別が困難(疲労は、徐々に自覚でき、休めば回復する) ⑥重症の低体温患者の心臓を物理的に刺激すると、心室細動を起こし、電気ショック以外に救命手段がない。

低体温症の分類は、山岳遭難・水難など

事故などに起因する場合は「偶発性低体温症」と呼び、さらに夏の山風の風雨による湿性寒冷の場合を「湿性低体温症」といい、強風では加速度的に悪化する。また冬の乾性寒冷の中で雪崩に遭遇したり、クレバスに転落したり、高所ビバークによる低体温症を「乾性低体温症」という。

低温曝露時間による分類では、6時間未満で発症する場合(水難)の「急性低体温症」、6～24時間(登山)の「亜急性低体温症」、24時間以上(老人病・アルコール中毒など)の「慢性低体温症」があり、いずれも放置すると死にいたる可能性がある。

「震え」を見逃すな

■では、どのような状況で低体温症になるのか。

医療法人 立史会
理事長 今井立史(スポーツクター)

今井整形外科医院
TEL 055-232-7411

お年寄りのリハビリと介護
介護老人保健施設 **ノイエス**
TEL 055-275-1165

瑞牆・金峰・横尾の山行時には

〈コーヒー・季節料理・お食事・宿泊〉

みずがきの宿 **五郎舎**
ごろうや
でおくつろぎ下さい。



TEL(0551)45-0329

①気温が低くなくても雨まじりの強風にさらされているとき②衣服の断熱性が不良、濡れている、頭頸部・駆幹が保護されていないとき③水中に転落した場合は、16～21℃以下の水につかっているとき④けがをしている場合⑤疲労困ぱいで、あるいは厳しい地形で動けない場合などである。

■低体温症では、以下の症状が現れるので、よく理解し判断して早めに対処することが肝心である(体温数字は直腸温で記載)。

脇の下ならマイナス1℃、口の中ならマイナス0・5℃勘案すること。

観察と予防に気配り

(1) 前兆く軽症の低体温症

- ① 36℃ 寒さを感じる、寒気がする。
- ② 35℃ 震えが始まる、歩行が遅れる、手の細かい動きができない、皮膚感覚が麻痺している。
- ③ 35℃ 震えが激しくなる、歩行は遅くよるめく、筋力の低下を感じる、口こもる会話、意味不明の言葉を発する、無関心な表情、眠そう、軽度の錯乱状態、判断力が鈍る、自分が低体温症になっていると分からない。

・この段階で回復の処置を取らないと死に至ることがある。

(2) 中等症く重症の低体温症

- ① 34℃ 32℃ まっすぐに歩けない、転倒する、歩けない、手が使えない、感情がなくなる、しどろもどろな会話、意識が薄れる、寒さから身を守ることに無関心。
- ② 32℃ 30℃ 震えが止まる、筋肉が硬直、起立不能、思考不可能、錯乱状態、不整脈出現、意識を失う。
- ③ 30℃ 28℃ 半昏睡状態、筋肉の硬直が著しくなる、瞳孔拡大、脈が弱い、呼吸数半減。
- ④ 28℃ 26℃ 昏睡状態、心臓停止。

・ひとたび35℃以下になると加速度的に進行する。

■低体温症にならないためにはどうするか。

① 低体温症は夏山でも起こりうることを知る② 湿性寒冷プラス強風の状況では互いに観察しあう③ 低体温症の状況で歩き続けるには著しい酸素消費量を必要とするの

で、ピバーク態勢に入るか、中止を考える④ 早めに防寒用ウェアの重ね着をする⑤ カロリーのある行動食を補給する⑥ 水分摂取をこまめに行い、脱水症状に陥らない⑦ 35℃ 34℃で起こる震えは重要な指標であるので、直ちに中止かピバークを考える。

■低体温症が疑われる場合の現場での対処法は

- (1) 軽度の低体温症 (35℃ 33℃) の場合
 - ① 可能なら救助要請をする② 風雨を避ける③濡れた衣服は着替えさせ、締め付けないようにする④着替えがなければ、水や空気を通さないものでくるむ⑤可能な加温法で温める⑥愛護的に扱う(ゆさぶらない、さすらない)⑦温かい飲み物をゆつくり与える(カフェインを含むものは禁忌)⑧アルコール、たばこは禁忌。
- (2) 中等度く重度の低体温症 (32℃以下) の場合
 - ① 丁寧に扱う② 医療機関への搬送を手配する③(原則として)現場で加温してはいけない、手足をさすってもいけない④医療機関への搬送が不可能な場合は、まず胴体だけを極めてゆつくり温める⑤可能なら(救護隊が装備していたら)循環血液量を増やすため、末梢の静脈から40℃に温めたリンゲルまたは生理食塩水などを点滴注入する。

ただし、心室細動を誘発する次のような危険な行為には注意する必要がある。

- ① 体を動かす(低体温症のとき体を動かすと、筋肉が働き、酸・カリウムが高くなり、より冷たい血液が心臓に戻ってしまう)

- ② 前胸部をたたく③ 体を持ち上げたり運ぶ際、乱暴に扱う④ 外からの急激な加温

⑤ マウス・ツー・マウスによる人工呼吸⑦ 強心剤の使用など、以上のこととはしてはいけない。

■水に浸かった場合の低体温症

- (1) 短時間10℃の冷水に浸かったとき
 - ① 心臓 機能異常から死亡(高齢者)、またはリズム異常から突然死(若年者)② 筋肉 泳ぎの場合は10℃ 15分で泳ぎを続けられなくなり、溺死
- (2) 長時間10℃の冷水に浸かったとき
 - ① 10℃ 15分で震えが出現し、深部温度が下がってくる② 45分で深部温度は下降を続け、知的活動が低下する。加温すると10分後に皮膚温は元に戻り、震えは止まり、さらに10分後、深部温度はゆつくり上昇を始める。

■まとめ

- (1) 「低体温症」について、過去の事例からも学ぶことも含め、正しい知識を持つこと② 「低体温症」は、治療より予防こそ大切である。
- (2) 「低体温症」は①ひとたび低体温症になると自力脱出できない②低体温症の初期では、本人にその認識がないことが多い③「震え」は低体温症の大切な兆候で、止まったときには進行していると考えること。
- (3) 高齢者は特に体温調節に細かい配慮をする。①余計な汗をかかない②衣服の素材を選ぶ③こまめに着脱する習慣をつける④重ね着はサイズを考慮する。
- (4) 山では、水分と高カロリー行動食を少量ずつ何回も摂取することを習慣化する。

(副会長 古屋寿隆)

TERNUA
non gorda, han zagob

スペインの人気ブランド上陸。

本格登山に対応するハイスpekウェアから、トラベル、ライフスタイルをテーマとしたカジュアルなウェアまで、幅広いラインナップでスペインで抜群の人気を誇るアウトドアブランド、テルヌア。ブランド名の由来は、何百年もの昔、バスク人が数千キロの旅をしてみつけたテルヌア島(現在のニューファンドランド島)からつけられ、そんな場所へ向かう信念、決意、勇気が込められている。ICI石井スポーツを拠点に展開される新作には機能性だけでなく、ファッション性も取り入れられたTシャツやパーカなど、従来のアウトドアブランドとは一線を画すアイテムもラインナップと見逃さない。

登山用品全般(冬山・沢登り・クライミング・山スキー・テレマークスキー) 高所作業用品・スキー用品取扱

ICI石井スポーツ 甲府店
www.ici-sports.com

〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1
TEL.055-221-0141
営業時間: 平日・土 / 10:30~20:00
日・祭日 / 10:30~19:00

県体協とタイアップ Jクライミング教室

県体協とタイアップしたジュニアクライミング教室(第1期)を10月17日から全5回実施した。9人の子供と2人の親御さん、計11人が参加し、無事終了した。

教室は、基本の登り方からより効率よく登るためのムーブや手順、オブザベーションなどを練習。最終日には小瀬クライミング場の外壁、12mにチャレンジした。設定した2本のルートを完登したのはわずかに1人だったが、トライする度に自分の限界を1手づつでも先に進めていく姿は実に素晴らしい、感動的な拍手が贈られることもしばしば見られた。

競技委員会の講師陣はこの1カ月間、土曜日に課題作り、日曜日に指導と、週末の

若尾が3位入賞

関東地区クライミング競技会

11月14日、栃木県日光市青少年スポーツセンターで、第12回関東地区クライミング競技会が開かれた。山梨からは、国体少年男子メンバーでもある若尾龍隆と田中慎一、女子は花田莉奈の3人が参加。若尾が3位に入賞した。

田中、花田ともに予選通過のために超えたい団子ポイントに吸い込まれてしまい敗退。若尾だけが予選2本目(5・12c)も楽々と完登して、1位タイで決勝に進んだ。そして男子決勝。下部から厳しい設定だったが、彼の得意とするダイナミックな登りで難所を次々に突破。会場も多いに沸いたが、あと5手まで迫ったところで力尽きた。

山行、岩場を返上して取り組んでいた。誠実がありがとうございました。適正な課題設定やスタッフの負担減など、次期への反省もあるが、参加者の評判は良いと思われ、第2期も7割の生徒が参加を希望してくれた。今後も楽しくクライミングに取り組み、続けてほしいと願っている。

(競技委員長 安田賢)

21人参加して合同研修会

三ツ峠、牛心山スライドも

11月6、7日の両日、三ツ峠で合同研修会を開催した。参加者は白鳳会4人、南嶺2人、御坂4人、高根1人、メープル2人、アルパイン6人、山梨大2人の計21人。

初日は午前中、天狗岩でビレイ点構築やフォロアの確保方法、対物ビレイを行う際の正しいビレイ器具の使用方法などの内容

高度では2位タイだったが到達タイム差で3位となった。ちなみに、17歳の若尾はファイナリストでは最年長。1、2、4位は中学生、8位は小学生だった。成績は次の通り。

- ▽男子 ①是永敬一郎(埼玉) ②野村真一郎(茨城) ③若尾龍隆(山梨市) ④田中慎一(韮崎工高2)
- ▽女子 ①野中生萌(東京) ②平井悠季(茨城) ③五月女美元(栃木) ④花田莉奈(須玉中2)

(競技委員長 山森政之)

群馬・太田市からも参加

第51回木暮祭

10月17日、本年もさわやかな秋空のもと増富金山平において、木暮祭が開催された。一昨年から交流を始めた翁の生地・群馬



合同研修会の参加者

で講習を行い、午後からは屏風岩へ向かう班と分散した。夕方4時からは三ツ峠山荘で、白鳳会亀田さんによる中国牛心山南東

県太田市からもバスで24人がかけつけてくれた。生地にも翁の顕彰碑があり、20年来、毎年11月3日に懇話会を行っている。理太郎の功績をしつかりと後世に継ぐために今年2月、「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」を創設、会報「理太郎便り」も第1号を発刊した。

碑前では木暮碑委員会、日本山岳会山梨支部、山梨岳連が主催者あいさつ。太田市関係者のあいさつの後、岳連から献酒、日本山岳会から献花が行われた。キャンプ場へ戻ってからは、増富ラジウム映光協会

で毎年用意してくれるおいしいきのこほうとうに舌鼓を打ちながら、矢崎茂男さんのミニ講演「木暮翁と増富の山々」に聞き入った。

(副会長 古屋寿隆)

近藤さんに体育功労賞

(技術指導委員長 古屋仁志)

平成22年度の県体育功労者に、岳連から近藤孝久さん(からまつ山岳会)が選ばれた。岳連の遭難対策委員長として、長年にわたり各種講習会での指導や安全登山の普及などに貢献した。9月の県体育祭り開会式で表彰された。

バットレス登攀自粛を

大規模崩落で県警や日山協

北岳バットレスで10月10日ころ、大規模な岩盤の崩落が発生し、1人が死亡した。県警や日山協は立ち入り中止を呼び掛けている。崩落は第4尾根の上部「枯木のテラス」そのものが崩れ、通過不能になるとともに、落石や崩落拡大のおそれがある。

YATSUGATAKE

パイの家
エム・ワン

八ヶ岳*手づくりアップルパイ

有限会社 パンの家エム・ワン

〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸5883

TEL.0551-38-4181

FAX.0551-38-4409

URL <http://www.pai-ml.co.jp>

E-mail info@pai-ml.co.jp

(地方発送も承ります)

理 事 会 報 告

■平成22年9月度理事会

9月1日 午後7時〜 小瀬スポーツ公園武道館会議室

○協議事項

1 山梨県体育祭り山岳競技の実施態勢について

↓9月12日 小瀬スポーツ公園クライング場

2 中・高年齢登山指導者講習会の実施態勢について

↓10月8〜10日 富士吉田市

3 カレンダー配布数の確認について

第65回国体選手激励会と応援について

↓激励会9月12日 小瀬スポーツ公園クライング場

4 大会10月2〜4日 千葉県印西市

5 その他

・「日本山岳遺産サミットin山梨」後援承認 11月3日シンポジウム(甲府)

・山岳トレ整備について、県と意見交換を近くに行う

・国体の監督は、岳連加盟者である必要があり対応を検討する

■平成22年10月度理事会

10月6日 午後7時〜 甲府市総合市民会館

○協議事項

1 岳連カレンダーの配布と山岳レインジャー費との精算について

↓11月にレインジャー配置内容を精査し、再提示

2 岳連合同研修会の実施について

↓11月6・7日(土・日)三ツ峠

3 関東スポーツクライミング競技会への派遣選手について

↓11月14日 栃木県

4 その他

・山岳レインジャー総括会議の実施について

・ジュニアクライミング教室の実施について

・第51回木暮祭の実施について 10月17日 増富・金山平

■平成22年11月度理事会

11月4日 午後7時〜 小瀬スポーツ公園武道館会議室

○協議事項

1 岳連カレンダー売上とレインジャー経費との精算について

↓レインジャー配置変更内容を反映

↓レインジャー費との相殺により、岳連からの支払いは、12月中に行う

↓カレンダー売上金納入の場合は、1月の新年会までに納めること

2 岳連合同研修会の実施について

↓11月6・7日 三ツ峠

3 次回国体関東ブロック大会審判員の推薦について

↓(2月初旬研修会 4 or 5月審判員研修会 茨城県)

↓人選については、競技委員会へ委任

4 その他

・岳連新年会について 1月22日 勝沼・大善寺

・日山協50周年募金 5万円で調整する方向で事務局一任

・日山協50周年記念功労者表彰 事務局一任

活 動 記 録

9月1日 会報81号発行

理事会(甲府市)

4・5日 山岳レインジャー高山植物現地学習会(鳳凰三山)

11日 県体育功労者・優秀選手表彰式

(小瀬)

11・12日 日山協自然保護委員総会(新潟)

12日 県体育祭り山岳競技(小瀬)

17日 山岳トレ整備に関する県との意見交換(甲府市)

25日 クライミング認定講習会(小瀬)

29日 自然保護委員会(甲府市)

10月3〜5日 第65回国体育大会山岳競技(千葉)

6日 理事会・2011年カレンダー配布(甲府市)

8〜10日 中・高年齢登山指導者講習会(富士吉田市・三ツ峠)

17日 第51回木暮祭(増富・金山平)

Jクライミング教室(小瀬)

24日 Jクライミング教室(小瀬)

25日 第5回山岳トレ研究会(甲府市)

31日 Jクライミング教室(小瀬)

11月3日 日本山岳遺産サミットin山梨(甲府市)

4日 理事会(甲府市)

7日 Jクライミング教室(小瀬)

6・7日 第10回岳連委員会合同研修会(三ツ峠)

10日 山岳レインジャー活動総括会議(甲府市)

14日 Jクライミング教室(小瀬)

16日 関東地区スポーツクライミング競技会(栃木)

16日 第2回選手強化会議(小瀬)

24日 自然保護委員会(甲府市)

27日 クライミング認定講習会(小瀬)

行 事 予 定

12月1日 会報82号発行

理事会(甲府市)

競技委員会(甲府市)

中旬 県体育祭りヤリリング(小瀬)

1月15日 日山協創立50周年式典(東京)

22日 理事会・岳連新年会(大善寺)

クライミング認定講習会(小瀬)

26日 自然保護委員会(甲府市)

2月初旬予定 国体審判員関東ブロック研修会(茨城)

5・6日 関東地区山岳連盟連絡協議会(群馬)

中旬予定 岳連雪上水瀑講習会(予定)

中旬 日山協評議委員会(東京)

23日 常任理事会(甲府市)

下旬 第6回山岳トレ研(甲府市)

3月1日 会報83号発行

2日 理事会(甲府市)

26日 クライミング認定講習会(小瀬)

ISO 14001 認証取得
ISO 9001 認証取得

真 心 と 確 かな 技 術



株 式 会 社

早 野 組

代 表 取 締 役 社 長 早 野 潔

本 社 / 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10 ☎055-235-1111
東京支店 / 〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24 ☎0426-67-8800
リニューアル室 / ☎055-232-0200

国体少年男子リードの若尾龍隆
と田中慎一

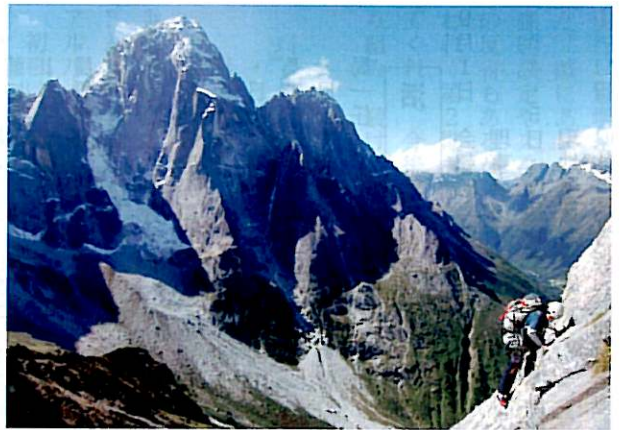


牛心山南東壁の初登ルート

海外で
国体で
県岳連が
成果



国体少年女子リードの安田あとり (左) と河野明理



南東壁の岩壁に行く

国体成年男子ボルダリングの遠藤拓真
(左) と大森僚



登山隊メンバー



アピ山西側の未踏の山々